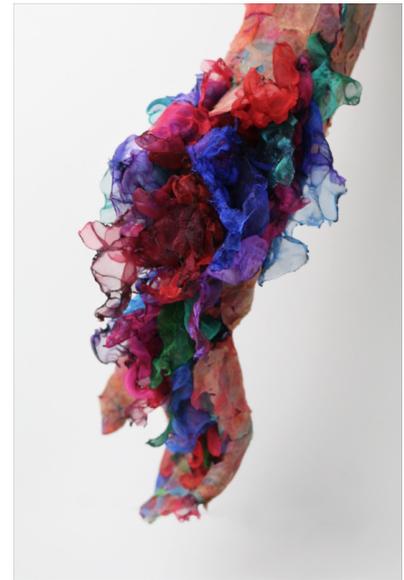


inside

KUNST ARZT では、明石麻里子の個展を開催します
明石麻里子は、オーガンジー生地を駆使し、心象を映し出す
アーティストです。

内臓、皮膚、血脈などをモチーフにしていますが、染色、加
熱変形、縫製といった手法を通したオーガンジーは生々しさ
とは違い、透明感や軽さを内包し、独特の表情と美を有します。
オブジェやインスタレーションのみならず、ファッション展
開も行っています。
ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



自死 2020

1996年 岡山県生まれ
2019年 成安造形大学 芸術学部 コスチュームデザインコース卒業

個展

2019年 『相関する心身』 Art Spot Korin
2020年 『もっと、もっと叫びたい。』 Gallery Take two

グループ展ほか

2019年 『成安造形大学 卒業制作展 2019』 京都市文化博物館
2019年 ファッションショー『SEIAN COLLECTION 2019』京都市文化博物館
2020年 『第二回全日本芸術公募展 大賞展・入選展 (佳作受賞)』 豊中市文化芸術センター
2020年 『世界で一枚のシャツ展』 gallery サラ

2021年10月5日(火) から10日(日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

inside

アーティスト・ステートメント

化学繊維のオーガンジー生地を染色・加工し、衣服や人体をモチーフとした立体造形物等の制作を行う。内臓、皮膚、血脈など人体を構成する要素をモチーフとし、身体の内から溢れ出す情動や、揺らめく感情などの形のない精神性や深層心理を表現。

展覧会コンセプト

内面という、個人の独立した心の中をイメージする言葉だろう。しかし、現代社会に於いてはインターネット等を介して個人の内面同士が繋がりが合い、互いに影響を与え合う。"個人の内面"は"集団の内面"に拡大していき、他人との境界すら曖昧になる。形ない精神世界は人間の本能も感情も浮き彫りにしている。内面というのは形がなく、それがたとえ自分や集団の心理的なものであっても意識しづらい。内と外の関係性を物体として可視化することで再認識することが出来るのではないか。自分自身の感覚で表現したい。



『I-アイ』

2020

ポリエステル・ナイロン

この作品は、作者自分自身の顔から型を取り制作した。思考と空想のイメージは抽象的色彩となって『私』の器から溢れ出す。鑑賞者としての"私"と作品としての"私"。どちらの私が本物だろうか? 互いに対峙するとき、形のない感情や人格を作品の中に再確認していく。

『心象I』

2020

ポリエステル、ナイロン
直径約100cm

身体モチーフとした作品から、より抽象的な内面性の表現を追求しタペストリーとして構成した。心象とは、心の中に思い描いたり、浮かんだり、刻み込まれているもの。体験や感情、感覚によって引き起こされるもの。正の感情も負の感情も、一瞬の心情がこぼれ落ちて幾重にも波紋を広げるように滲んでいく感覚。心象I(写真左)は情熱・情愛・怒り等激しく表出する情動を、心象II(写真右)は不安・憂鬱・悲しみ等閉じた内面性を象徴している。

